この週末はカジュアルクルーズ

気軽に愉しむ大人の船旅

ゆっくり流れる時間の有効活用

海の青が藍色に変わっていく。そこへ夕陽が茜色に染める―。大阪・南港を出港した「さんふらわあ さつま」は、関西国際空港を横目に見ながら友ケ島沖へ差し掛かった。甲板には多くの乗船客が出て、その美しさに見入っている。船旅の不思議なところは、甲板上に数人いようと、その風景を独占したかのように思えること。波の静けさと黄昏どきの美しさが風景の中の孤独を演出してくれている。

鹿児島へ旅立とうと計画したのは、数日前のことだ。仕事に一区切りをつけて船で行くことにした。九州へのルートは、飛行機もあれば、新幹線もある。車で行きたければ、高速道路をひた走る手もあるわけだ。それでも船旅を選んだのは、時の流れをゆっくりと進めたかったのと、仕事で疲れた身体を休めたかったからである。人生のうちで、お金と暇があれば、豪華クルーズで海外に行ってみたい。そんなことを常々考えておきながら、まだまだ働き盛りの我が身は、その域まで達していない。かといって最近流行りの豪華列車の旅は荷が重い。かなりの出費が強いられるからだ。そんな時に飛び込んできたのが〝カジュアルクルーズ〟なるフレーズであった。それを実践している「フェリーさんふらわあ」は、時代にマッチした船旅を薦めている。かつてフェリーは、車を運ぶ手段として主に用いられ、広間で雑魚寝の印象が強かった。ところが今は、個室を取って快適な旅を楽しむ、そんなニーズが高まっていると聞く。それなら私も九州へのルートは、カジュアルクルーズをと考えたとておかしくはない。

株式会社フェリーさんふらわあ旅客営業部営業企画室の仲村啓人さんの話では、最初に埋まるのがファーストシングルで、気兼ねすることなしに一人旅を楽しもうと、一人用の個室から売れていくそうだ。一人でもツインの部屋を押さえたい向きは、ホテルと同じ。最上のデラックスとまではいかなくても、デラックスBを取ってゆったりと使う人が多いという。かくいう私もそのうちの一人。ファーストシングルが取れなかったのでデラックスBをシングル利用することにした。

たまたま夕食で隣りに座った濵田一也さんは、親子5人で車にて乗船。出身地・長島町へ里帰りのルートを海上に取った。「4歳、2歳、0歳と子供が小さいのでゆっくりできるフェリーがベスト。3年半ぶりの里帰りですが、孫を見せてあげるのが楽しみで…」と話している。濵田さんは夜勤明けの疲れた身体で旅に出た。「フェリーな

First ファースト

「ファースト」は、部屋の両端に二段ベッドを設置した13平米のタイプ。ファミリー層が使用することが多く、スタンダードタイプは使い易い。船内に一室ずつ、「くまモンと夢見る船旅ルーム」と「ぐりぶーとさくらの仲良し船旅ルーム」がある。各々の部屋には、熊本県のキャラクター・くまモンと、鹿児島県のキャラクター・ぐりぶーとさくらが配されており、子供に大人気。また、レディースルームも設定されており、レディース用のアメニティやウェルカムドリンクなども用意されている。

First Single ファーストシングル

最も早く埋まるのが一人用の「ファーストシングル」。ホテルでいうシングルの広さで、10平米に幅90cmのベッドが一つ。のんびり一人旅を楽しみたい人にはぴったりで、机もあるので仕事もできる。

Tourist Bed ツーリストベッド

Tourist ツーリスト

大衆向けとして「ツーリストベッド」と「ツーリスト」を設置。前者は幅80cmの二段ベッドを配したもので4名タイプと6名タイプがある。家族利用もあるが、大半は一人客がよく利用する。片や後者は106名収容で、広間に幅60cmのマットを配したもの。ちなみにマットは指定になっている。

Deluxe デラックス

「デラックス」は、「フェリーさんふらわあ」では最上級の部屋。20平米ある客室内に幅100cmのベッドが二つと、応接セット。勿論、バス・トイレ付きである。「さつま」「きりしま」とともに10室しかないので、船旅を贅沢に楽しみたい向きは、ここがぴったり。「さつま」のコンセプトはスペイン風で、「きりしま」は南仏をイメージ。まるでホテルにいるような心地で、室内も広いのでゆっくりしたい人には、ぜひともオススメ。

Deluxe B デラックスB

「デラックスB」は、「デラックス」の一つ下のタイプ。13平米の個室で、幅90cmのベッドが二つに、ソファーが付く(シャワー・トイレ付き)。ソファーをベッドとして利用すれば3名の部屋にもできる。聞けば、ここをシングル利用する向きも多いのだとか。価格も比較的リーズナブルなのでカジュアルクルージングに利用する人も多い。大半は洋室で、2室と少ないが、和室タイプもある。

ら車で乗船できるために荷物も積めるし、何より寝ている間に移動できるので身体も休めます」とカジュアルクルーズの利点を語っていた。志布志に着くのは、朝9時前。そこから車を飛ばして両親が待つ長島町へ向かうらしい。袖すりあうも多生の縁とはよく言ったもので、このように見知らぬ人と会話をするのも船旅が持つ大らかさからか。新幹線や飛行機の移動ではこうはいくまい。前出の仲村さんの話によると、平日は100名前後の乗船客がいるそうだ。これが繁忙期(GWや夏休みなど)になると500～600人が乗ってくる。そこにはトラックの乗船もあるが、一般客も多いのは確か。移動の間も有効的に時間を使いたい人がそれだけ沢山いるということだ。

18時になるとレストランがオープンする。食事はバイキング形式で、夕食が大人1540円である。料理は季節替りで、焼きそばに、唐揚げ、サラダ、オリジナルカレーなどメニューも豊富。志布志航路だからだろう、きびなご天といった鹿児島らしい料理も置かれている。見ていると、旅の楽しみの一つは食にあるのか、開くとすぐに入る人がかなりいる。当方は、まずは夜の帳(とばり)が降りるまで風景を楽しみたい。それからでも食事は遅くはない。

一風呂浴びて浴衣姿でデッキに出てみた。瀬戸内海なら月明りに島影が見えるのだが、志布志航路は太平洋を走る。故にこれといった風景はなく、暗い海と闇が広がるだけ。周りが暗い分、星空がきれいである。これだけ多くの星を見たのは何年ぶりだろうか。デッキでビール片手に佇むことしきり。部屋でBS放送を観てもいいのだが、せっかくの船旅だ。時がゆっくり流れるのを星空の下で味わうのもオツなものだ。

部屋は流石に個室とあってホテルと同じ。違うのは波の揺れと船の走る音ぐらい。大きな船だけにほとんど揺れは感じないが、波間を走る様が心地良い。地上のホテルよりむしろ気持ちよく眠りにつけた。

朝、目覚めると、窓の外は海上景色ー、それはそうだろう船旅なのだから。それが不思議に思うほど夕べはよく睡眠がとれた。計算では7時には宮崎沖を走っていることになる。右手に日南が見える。朝食もバイキングスタイルだ。620円でチケットを買ってレストランで目覚めのコーヒーを飲むことにした。実は、早起きをしそこねた。幾人かは早起きし、海上からの朝日を眺めていたらしい。船内でいっしょになった梅田雄一さんは、阪神間にスタジオを持つカメラマンで、早朝からデッキへ出てその風景を撮影したのだそう。「タイタニックで有名になった手を広げて二人で立つポーズがあるでしょ。あれをデッキでやっているカップル

フェリーさんふらわあの着く

志布志って、こんなまち

時刻表

	大阪南港コスモフェリー 第2ターミナル		志布志港（鹿児島）
下り便	月～金	17:55発	翌朝8:55着
	土	17:55発	翌朝9:40着
	日	17:00発	翌朝8:55着

	志布志港（鹿児島）		大阪南港コスモフェリー 第2ターミナル
上り便	月～木	17:55発	翌朝7:40着
	金	17:55発	翌朝7:50着
	土	18:30発	翌朝8:50着
	日	17:00発	翌朝7:40着

「さんふらわあ さつま」が発着する志布志は、古くから港湾都市として栄えたところ。島津領だった時代は、日向唯一の浦町として京阪はもとより、南西諸島との廻船で潤った。密貿易も盛んに行われたようで今でも町に密貿易の屋敷跡が見られる。

現在、志布志は人口3万人ほどの市で、その名称から"日本一志の多い町"としてPRしている。現に市内のある所を記すと、志布志市志布志町志布志という住所になり、いくつも「志」という字を書かなければならない。この志布志なる地名は、二つの伝説からつけられた。天智天皇遷幸の折りに、天皇に布を献上した妻女の優しい心に倣って召使いの女性も布を献上した。そのことに天智天皇はいたく感激され、「上下より布を志す誠にこれは上下の志布志である」と言われた。そのことから町の名がついたという。

さんふらわあライナー時刻表

さんふらわあライナーは、志布志⇔鹿児島市内を結ぶ高速シャトルバスです。※ご乗船のお客様は運賃無料

	志布志港	鹿児島中央駅	天文館	南埠頭高速船ターミナル
月～土	9:10発	11:03発	11:08発	11:13発
	16:33発	14:40発	14:35発	14:30発
日	10:10発	12:03発	12:08発	12:13発
	15:48発	13:55発	13:50発	13:45発

明治維新150年を迎える鹿児島県だが、志布志も幕末期と少なからず関わりはある。薩摩藩の財政改革を行った調所広郷は、志布志領の地頭で弘化3年に亡くなるまでその職を兼務していた。志布志の中心部は、明治の廃仏毀釈によって取り壊された所が多いようだが、それでも寺院が多く、大慈寺は由緒あるところ（室町期の創建で京都の妙心寺の末寺にあたる）。江戸期には100名もの僧侶が学問に励んでいた。

かつてこの町は、"志布志千軒まち"と呼ばれ、海商らが勢いづけていたことから古い屋敷が今も残る。「平山氏庭園」や「天水氏庭園」などはその一例で、この二つは国指定文化財になっている。市では歴史ある町を知ってもらおうと、「麓庭園と湧水郡」「大慈寺とその門前」「千軒町」「宝満寺跡と武家屋敷」の4つの散策コースを組んで歴史散歩を薦めているようだ。

ちなみに志布志で忘れてならないのは、鰻の養殖とお茶の生産。前者は日本一の生産量を誇るほどで、大隅産の鰻は身が厚く、脂が乗って身が柔らかいと評判。全国の鰻屋から名素材として求められている。後者の日本茶も栽培は盛ん。鹿児島自体が茶どころといわれているが、志布志にも茶畑は点在。ここで摘んだお茶は、爽やかな香りとコクのある旨みが特徴とされる。

鬼塚製茶

「平山氏庭園」のすぐそばにある鹿児島茶の専門店。自家の茶畑で摘んだ日本茶を販売している。有機栽培茶「夏井」や特上深蒸し茶「あおい」「上煎茶」「さがの」が代表的商品。写真はくき茶。

鬼塚製茶
所 鹿児島県志布志市志布志町帖4373
☎ 0120-72-0074
時 9:00～17:00
休 日祝日

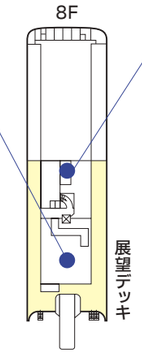
平山氏庭園

天水氏庭園、福山氏庭園と並ぶ志布志麓三庭園の一つ。江戸初期に造られた寺院庭園で、荒々しい岩盤と緑がダイナミックな調和を見せている。作庭者は石峯時代の住職と伝えられているようだ。

安楽山宮神社の大楠

安楽の山宮神社鳥居横に立つ大楠は、国指定の天然記念物で、幹周囲が17.1m、高さ23.6m、根回り32.3mの大木。樹齢は800～1000年といわれている。県内には国の天然記念物に指定されたものが三つあり、この古木はその一つ。根元に空洞を持つことから、住民からは"トトロの木"と呼ばれて親しまれている。

安楽山宮神社
所 鹿児島県志布志市志布志町安楽1750
¥ 拝観自由



1 「フェリーさんふらわあ」トリビア

写真の煙突部分は「さつま」「きりしま」とも8階デッキにある。「さんふらわあ」煙突のオレンジ色部分をファンネルマークといい、この色は商船三井系の証明。ちなみに他社は紺で白のラインがあったり、アルファベットが描かれたりしている。各船会社ごとに独自のラインと色があり、そこでどこの船かを見分けることができるのだ。

2 レストラン

太平洋航路を行く「さつま」と「きりしま」は、8階にレストランがある。券売機で食券を買って入るスタイルで、料理はバイキング。和洋中が揃ったメニューで当然ながら食べ放題。料理以外にスイーツも充実している。ちなみに料金は夕食が大人1,540円、小学生1,030円、4歳～未就学児650円、65歳以上1,230円。これにプラスすれば、お酒（生ビール500円、日本酒410円～など）も飲める。

3 売店

エントランスホール入ってすぐに位置するのが、この船の売店（船内ショップ）。ドリンクやお酒、つまみ、お菓子などが揃っているのでそれを買って部屋で飲むのもいい。売店前には「さんふらわあ」グッズや鹿児島や関西の土産物も販売。旅先で買い忘れた人は、ここでどうぞ。

4 ドラの音で出航!!

「ボ～ン」と大きな音がエントランスホールに響き渡ると、いよいよ船出。
この日は井端事務長によりドラが鳴らされた。昔懐かしきドラの音で旅立つあたりが、船旅らしくていい。

5 お風呂

窓から海を眺めながらの入浴は爽快。「さつま」「きりしま」とも6階に位置する大浴場は、出航してすぐに利用できる。人によっては、まず一風呂浴びて、それから浴衣姿でデッキに出ることもあるという。大浴場は日によって異なるが18時～21時頃まで利用できるので何度もお風呂を堪能する人も…。

船内で買える さんふらわあ GOODS

1 さんふらわあの旅（10枚入クッキー）680円　2 さんふらわあアポロキャップ2,000円　3 さんふらわあ×クシタニ コラボキーホルダー1,080円　4 さんふらわあオリジナルステッカー150円　5 さんふらわあ自由帳180円　6 さんふらわあシャープペンシル（デルガード）500円　7 さんふらわあ球体ストラップ260円

がいるんですよ。周りに何人かいたのですが、二人の世界に入っているらしく、朝日を背景にロマンチックに語っていましたよ」と笑う。これも船旅の成せる技だろう、そうできてしまうムードが船にはあるのだ。

九州の山並みが近づいてきたら、いよいよ志布志港だ。この町は古くから港湾都市として盛え、鹿児島の西の玄関の役割を果してきた。フェリーは定刻通りに8時55分に到着した。17時55分に南港を出て、約15時間船内で過ごした。こう書くと長いような気がするが、身体が休まり、時間がゆっくり流れ行く様を体感した。普段着で乗船できる贅沢さ―、カジュアルクルーズとはよく言ったものである。

（文／ジャーナリスト・曽我和弘）